

コーン！な、たより

1

2022/7/1



コーンプロジェクトチームは、2020年にビジョンマップを作成した「魅力発見隊」と「野遊び」のメンバー、「一般公募」が合体した進化系チーム。6回のワークショップを通して、コーンのレシピと観光ツアーを完成させ、それまでの道のりを“コーン！な、たより”で報告させて頂きます。どうぞお楽しみに！

7月1日ワークショップのキーワード

「夢の大地」

「IF YOU BUILD IT, THEY WILL COME.」

7月1日（金）、コーンプロジェクト活動の第一歩である第1回ワークショップが開催された。この日は、町民の方16名が参加。

このワークショップは、コーンを商品と考える「ブランディング」という視点で、それぞれの立場から想いを出し合い、グループで集約し発表をするもの。このプロジェクトの進行役である山本さんは、芽室町を「夢の大地」と表現。また、「IF YOU BUILD IT, THEY WILL COME.」を和訳すると、「それを作れば彼らはやって来る」。コーンプロジェクトでの成果である「レシピ」や「観光ツアー」を作れば、芽室町を知りたい！行きたい！住みたい！のような連鎖が起こって・・・ということなのでしょうか。

オンラインとリアル混合での開催

このプロジェクトの進行役は、地域ブランディングの師匠と言われる山本聖（やまもとさとし）氏（JR東日本企画（JEKI））、ファシリテーターは地域プロデューサーの中村真也さん（一社北海道プロデュース代表理事）。山本氏は東京からのオンライン参加、中村氏は現地進行という形式でのハイブリッドの開催。



←山本氏（本人のフェイスブックから借用）

↓中村氏



芽室町の羅針盤はあの映画！？

山本氏からは、映画「フィールドオブドリームス」が芽室町の羅針盤になる。みなさんは、この映画を知っていますか？

～ある春の日の夕暮れ、平穏な暮らしを営んでいた男は広大なトウモロコシ畑で不思議な声を聞く。その声は、畑を潰して野球場を作れば彼が帰ってくると伝えていた。彼はその声に突き動かされるようにして、その日が来るのを信じて野球場を作り始める～

コーン日本一だからできる「夢」のプロジェクト。『フィールドオブドリーム～コーンスタジアムを創る。』新たなコーンプロジェクトの結末は・・・。



ワークショップ内容は、裏面でご紹介！

レシピ開発 ワークシップ

ブランディング
事業

「コーンの魅力」をとことん引き出す～芽室・十勝コーンラインナップ～がテーマ！

- ①個人でワーク！
(品種と特徴、競合地域を調べ上げる！)



- ②グループで個人ワークを発表し、
模造紙に意見を集約！



- ③各グループの代表1名が発表！



ワークの振り返り

まずは、コーンの品種や特徴を知るところから！

馴染みのあるイエローコーン以外にも、ホワイトコーンやバイカラーがあつたり、甘さや水分量、生食ができたりと様々な特徴のコーンがありました。

ワークに参加した高野さんは、「花粉でコーンの性質が変わる」とおっしゃられていましたので、ちょっと調べてみました！

トウモロコシは、風で運ばれる雄穂の花粉が雌穂について受粉をする。また、異なる品種を近くに植えると花粉が交雑して、品種の特性が出ないそうで、つまり、甘い品種の隣に甘みの少ない品種を植えると期待どおりの甘い品種ができなくなるみたいです。上手く掛け合わせたらすごいコーンもできちゃうのでは？とワクワクします。

観光ツアーア開発 ワークシップ

ノアリビ
SDGs事業

「コーンのある風景」を巡る旅～芽室・十勝フィールドライフ～がテーマ！

- ①個人でワーク！
(映えポイントを場所や体験、施設やシーンなどを創造！)



- ②グループで個人ワークを発表し、
模造紙に意見を集約！



- ③各グループの代表1名が発表！



ワークの振り返り

コーンのこんなのがあったらいいな！の商品や場所、風景、体験などを出し合いました！

素敵な意見や面白い意見が、たくさん出てきたので一部を紹介！

「食べたら痩せる！？ダイエットコーン」「町民には毎年一人一本プレゼント」「クソでかコーンモニュメント」「どうもろこしアート」「コーン（婚）活パーティー」「あえて断コーン日」など。みなさんがワクワク語る様子がとても素敵で、芽室町の未来が楽しみになる、そんなキックオフができました！